

意外と知らない!? 広報アレコレ

平成の大合併から6年、月2回の広報紙は月1回の発行に変わりました。一冊の広報紙に情報が集中し、それまでのようには掲載できないものがでてきました。平成22年5月号から広報きくちは紙面を一新。「伝えられなかった情報」をできるだけなくし、より多くの情報を掲載できるよう掲載方法を変更しました。

「まちの「今」を伝えるための情報源として生まれた広報紙

市町村が発行する広報紙には、行政が伝えたい・住む人に知ってほしい情報が詰まっています。昭和から平成へと時代が変化しても、まちに住む人と行政をつなぐパイプ役として、広報紙

は発行され続けてきました。広報紙は行政からのお知らせを、住む人へ伝えるために発行されます。新聞や雑誌と違い、掲載されるのはまちのこと。「まちの中で何が起きているのか。これからどんなことが起きるのか」など、住む人に知ってほしい情報や伝えなければいけない情報を掲載します。



昭和32年、当時の菊池町が発行した「菊池広報第1号」。
昭和32年の菊池町誕生から1年後、町章決定や衛生だよりなどを掲載した第1号が発行される。当時は、ミスコンテストなども行われ、第1回ミス菊池の審査結果なども掲載された。昭和33年に菊池市となり、昭和42年から「広報きくち」へ名称を変更。昭和48年からB5判へ変更され、昭和50年から月2回の発行が開始された。

「モノクロからカラーへ

昭和30年代、旧市町村が発行していた広報紙はタブロイド判（※1）が多く、新聞のように縦に文字が並ぶレイアウト（※2）でした。現在では雑誌のようなA4判のものが全国的にも主流となっています。これは写真やイラストなどを活用した紙面が増えてきたこと、見開きでのレイアウトが作りやすくなったことなどが理由とされています。紙面も旧市町村時代は1色刷りや2色刷りが多く、写真もモノクロ（※



右：昭和32年、旧旭志村が発行した「旭志村報第1号」。
昭和31年の旭志村誕生から1年後、予算やたばこ消費税などを掲載した第1号が発行される。昭和39年、「広報きくち」へ名称を変更。
左：昭和36年、旧泗水町が発行した「泗水町報第1号」。
昭和30年泗水村が誕生し、昭和36年に泗水町となる。その年の4月から発行された泗水町報には、予算書の可決や議員事務局からのお知らせが掲載された。昭和46年発行の第92号からB5判へ変更され、平成9年からA4判になり、「広報しすい」として発行された。

「広報紙にもUDの時代がきた

「UD（ユニバーサルデザイン）」とは、障がいの有無や年齢、体格などに関係なく、すべての人が快適に利用できるような製品や建造物、生活空間などをデザイン（設計）することです。対象を障がい者だけに限定せず、すべての人に優しいものであることがUDの基本的な考えです。

さらに、フルカラーだからこそ、色の使いすぎで紙面が読みづらくなるのを改善するため、カラーユニバーサルデザイン（※6）にも取り組みました。特に色覚障害を持つ人は、特定の色が本来とは異なった色に見えます。文字やグラフに使用する色に配慮し、誰でも見やすいと感じる色使いに変更しました。

虫眼鏡の中にある文章は、フォントだけを変更前に戻したものです。UDフォントは、変更前に比べて線と点の間が広くとられています。また数字の「3・6」などは、空間を広く開けることで、文字が小さくても潰れにくくなり、読み間違いが少なくなります。

「UD（ユニバーサルデザイン）」とは、障がいの有無や年齢、体格などに関係なく、すべての人が快適に利用できるような製品や建造物、生活空間などをデザイン（設計）することです。対象を障がい者だけに限定せず、すべての人に優しいものであることがUDの基本的な考えです。広報紙に掲載しているすべての文字を大きくすることは簡単です。しかし

紙面を一新する際、より見やすい文字としてUDフォント（※5）を採用しました。UDフォントは、以前と文字の大きさを変更していないにもかかわらず、見比べたときに大きく感じることができます。

- ※1 タブロイド判
新聞などに使われる用紙の判型。基準は546mm×813mm。
- ※2 レイアウト
紙面の仕上がりを考えて、文字・写真・グラフなどを所定の範囲内に効果的に配置すること。
- ※3 モノクロ
モノクローム。画面が白黒の写真や映画のこと。モノクローム・フィルムは、黒から白までの濃淡で画像ができています。
- ※4 フルカラー
印刷物などで「あらゆる色」を表現できること。3色以上であればフルカラーとなる。
- ※5 UDフォント
ユニバーサルデザインフォント。より多くの人が利用しやすいようUDに対応した書体。広報きくちでは、モリサワのUDフォントを採用。「文字の形が分かりやすい形状」「読み間違いにくい形状」「文書が読みやすい形状」に注意した書体。
- ※6 カラーユニバーサルデザイン
色の識別が不自由な人や年齢を重ねることで色覚機能が低下している人にも見やすく、分かりやすく情報が伝わるように配慮したデザインのこと。すべての人に情報が伝わるよう、利用者側の視点に立って作られたデザイン。

人口5万人を超える菊池市の人たちの心をつなげている「広報きくち」。合併から6年、旧4市町村の誇りを大切にしながらも、市民の心をつなぐために発行している紙面づくりをすばらしく思います。時間をかけて、広い市内を駆け回って完成する「広報きくち」は、行間から、担当者の熱意が伝わります。そして、今も昔も、その熱意は変わっていません。私は、隣町だという理由で広報交換させてもらい、読ませてもらっていますが、紙面から感じる郷土愛と手間暇をかけた文章、レイアウト、写真…そのすべてが、私たち市町村の広報担当者のお手本となるべきものです。広報きくちのような広報紙が、どの市町村にも配られている訳ではありません。このような市民に向けた愛があふれる広報紙はそうありません。広報きくちを一番に読むことができる菊池市の皆さんは、誇りを持ってください。私は、そんな皆さんがうらやましいです。



辻口 浩二さん

平成18年から「広報おおづ」を担当。第50回～第54回熊本県広報コンクール町村部特選（熊日賞）。平成20年には、全国広報コンクールで3席に輝く。